

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		8/26~9/2	9/2~9/9	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.14	0.15
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.10	0.072
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	0.045
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.12	0.31
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.035	0.037
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.058	0.042
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.025	0.030
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.075	0.10

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		8/26~9/2	9/2~9/9	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.034	0.034
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.018	不検出

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

市内の大気浮遊じん中のセシウム137濃度は、平均値が0.07mBq/m³で、県と国による6-7月の観測で得られた平均値と同じ程度の極めて低い濃度であり、健康影響について心配はいりません。しかし、福島第一原子力発電所事故からの完全復旧には、まだまだ長い月日がかかります。様々なリスクから自分の身の安全を保つためには、自分が置かれている状況をしっかりと掴んでおくことが最も重要です。その意味で放射能環境データについては、市の観測結果とともに国、福島県、東京電力などの観測結果にもしっかりと目を向けていきましょう。